

連携協働通信「架け橋」

横浜市教育委員会 学校支援・地域連携課 発行 NO.51

各学校や地域における地域学校協働活動の推進を目的に、地域と学校の連携・協働に関する情報を発信する連携協働通信「架け橋」を発行しています。当課の Web サイトでもご覧いただけます。研修資料等もダウンロードできます。ご活用ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/chiiikirenkei/gakkoushien.html>

地域と学校の連携・協働による学校運営の改善研修 報告

7月3日・10日に地域と学校の連携・協働による学校運営の改善研修を学校運営協議会会長や委員の方々、学校・地域コーディネーター、教職員を対象に行いました。

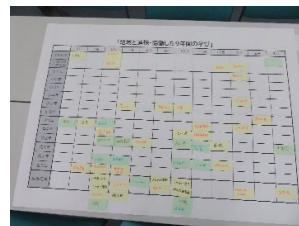
前半では、講師として文部科学省 CS 推進名誉マイスターの 竹原 和泉氏に『これからの学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進』をテーマに、講演いただきました。講演では、学校と地域が力を合わせて子どもたちの成長を支えることの大切さについて学びました。これからの社会では、子どもたちがさまざまな人と関わりながら、自ら考え行動する力を身に付けることが求められています。そのためには、学校だけでなく地域全体で子どもを育てる視点が重要です。講演でも地域の人との交流や体験活動が子どもたちの学びを豊かにし、将来につながる力を育むことが紹介されました。



後半では、竹原氏の講義の内容をもとに、学校と地域で行っている活動の「現状把握」をし、そのうえで学校教育内なのか、地域活動なのかを明確に、カリキュラムの工夫ができるようグループワークを行いました。

○グループワーク『「地域と連携・協働した9年間の学び」を可視化する』

- ・各学校で地域として関わった学校の行事や学習活動を付箋に書く
- ・書いた付箋を月や学年に分けて、表に貼る
- ・地域行事等は「地域」の欄に貼る
- ・それをもとにグループで共有し、考えたことを出し合う



共有の場面では、行事や活動の紹介や困り感などが話題に上がっていました。

また「可視化することで行事の集中している月がわかりやすくなった。」や「関わりの少ない時期や学年が可視化できた」など、参加者からの感想が聞かれました。

最後には、各グループから「学校と地域が連携していく中で大切にしたいこと」を共有しました。

竹原氏の講演を通して、コミュニティ・スクールは、学校運営について一緒に考えるとともに、互いに意見を出し合いながらそれぞれの役割を果たし、よりよい教育環境づくりを進めていくことの重要性を学

びました。子どもたちの未来のために、学校と地域が協力して取り組むことの意義を改めて考える機会となりました。

※グループワークで使用したシートについてはホームページにてダウンロードできます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/chiikirenkei/gakkoushien.html>

今回の研修には、2日間で約130人に参加いただきました。今後も、各学校の実践例や好事例等を引き続き発信していくとともに、教育委員会事務局としても正しい制度理解や地域と学校の連携協働に関わる人の役割等を伝え、周知をしていきたいと考えています。引き続きよろしくお願いいたします。

研修の振り返り

(振り返りより抜粋)

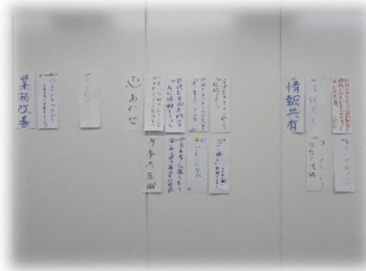
・子どもたちの将来を地域の一員として楽しみに見守り、一緒に育ちあいたいと思いました。
(学校・地域コーディネーター)



・改めてみんなが当事者となって、子どもたちみんなと関わり合って大切にしたいコミュニティにしていきたいと思います。
(学校・地域コーディネーター)



・学校で子どもたちがわくわくする学びができるようになるにはどうしたらよいか？を自分事として考えようと思いました。(協議会委員)



・「熟議」という言葉について考える機会になりました。「何のためにするのか」をどんなことにも明確にできたらと思います。(教員)



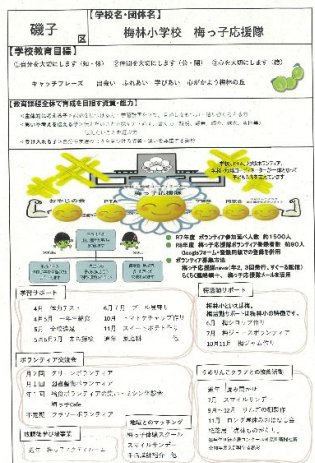
・コーディネーターとして様々な研修を受けてきましたが、今回の研修で学んだ経験をどう生かしていくかというHowについて、とても理解できました。
(学校・地域コーディネーター)

学校・地域コーディネーター養成講座② 報告

第二回学校・地域コーディネーター養成講座（7月15・16日）を行いました。講座では、学校運営協議会についての制度理解や委員としての役割について、教育委員会事務局より説明を行いました。地域学校協働本部の具体的な活動事例として、幸ヶ谷小学校、梅林小学校、永田中学校の活動について、学校・地域コーディネーターさんより紹介していただきました。

～各学校の「地域学校協働活動」の具体的な活動内容について、ワークシートをもとにお話いただきました～

磯子区 梅林小学校 「梅っ子応援隊」



- ・学校、PTA、地域ボランティア、学校・地域コーディネーターが一体となり、協力しあいながら子どもたちを支えています。
- ・「梅活動サポート」梅林小といえば梅。梅活動は梅林小の特徴です。年間を通した梅活動のサポートを行っています。
- ・梅っ子体験スクールやスマイルサンデーなどの活動と地域とのマッチングを行い、子どもたちの楽しく豊かな学びを応援しています。

南区 永田中学校 「スクールサポートけやき」



- ・「学校といっしょにやっていきたい」を大切に学校で活動を行っています。
- ・ボランティアで参加してくださる方が年々増加しています。また、ボランティアの方とは毎年「覚書」を取り交わし、活動内容や取り組み方の共有に努めています。
- ・活動の中で学校だけでは難しい場面においては、地域への協力をお願いしています。



- ・「大人も子どもも共に育とう」を合言葉に、支援される、支援するの関係ではなく、教職員も保護者も地域も共に学び合い協働する活動を行っています。
- ・学校といっしょに行う協働事業「ハピスマ」では、全校児童体験プログラムを開催し、外部講師による授業を行っています。
- ・幸ヶ谷共育倶楽部の行う自主事業としては、幸ヶ谷小向けの任意講座を不定期で開催しています。

神奈川区 幸ヶ谷小学校 「幸ヶ谷共育倶楽部」

その後、学校運営協議会に関することや、学校・地域コーディネーターとして活動していくにあたり疑問に思うことなどをグループで共有しました。各グループの代表として選出された質問者が、記者になりきり、発表していただいた学校・地域コーディネーターや教育委員会事務局、元学校管理職に疑問を投げかけ、回答を聞く「ミート・ザ・プレス」という手法を活用したインタビュー形式のワークを行いました。

実際の質問と回答をいくつか紹介します。



Q：地域学校協働本部を新設、リスタートする場合、何から始めるとよいか？

A：・学校とコミュニケーションをとる。学校が何を望んでいるのかを聞くことを大切にした。

・意味をこめたシンボルマークを決めたことで様々な場面で活用している。

・サポーター（ボランティアの会員）募集を行った。直接知り合いからつながることもあった。

Q：校内にいる学校・地域コーディネーターが一人しかいないため、他の学校とつながるためにネットワークを広げたいがどのようにするとよいか。

A：・市教委が行う学校・地域コーディネーター向けの研修交流会があるので、そちらに参加し、そこで出会った人とつながったり、そこから広げたりしている。

・各区でも学校・地域コーディネーターの交流会を行っている区があるので、各区の学校連携担当に聞いてみるのもよいかもかもしれません。

Q：次世代につないでいきたいと考えているが、後任の育成など考えていることはあるか。

A：・後任を考える際に大事にしたいこととしては、学校と足並みをそろえて活動を行っていくという、こちらが大事にしていることを一緒に大事にしていける方をお願いしたいということ。

・担当の仕事を引き継ぐために、担当の体制を二人ずつにすることでみんなができるように進めている。

その他、様々な質問に対して、学校・地域コーディネーター、教育委員会事務局、元管理職、教職員等の立場から具体的な事例をもとに回答させていただきました。参加者の皆様は、積極的に発言したり熱心に耳を傾けたりしながら、それぞれ学校運営協議会や地域学校協働本部の活動について理解を深めていました。



研修の振り返り

(振り返りより抜粋)

・なぜ始めたのか、どう現在地を見ているのかを学校・地域C0が語れるかが必要だからこそ、話をするのが、大事なのだと思いました。

・コーディネーター同士で足並みを揃えるためのコミュニケーションや先生方、保護者とのコミュニケーションが必要であり大切だと思いました。

・グループの方とコミュニケーションをとることで、学びや気づきが増えてきたと思いました。

・運営協議会委員としてこれまで参加はしていましたが、改めて詳しく学ぶことができました。

・活発な活動をされている先輩のお話が有意義でした。どの活動も自分の学校に照らし合わせどうなのかをしっかりと考えたいです。



学校・地域連携研修（教職員向け） 報告

7月29日（水）に、教職員を対象とした研修を実施しました。今回の研修は、教職員育成課の第2ステージ研修とタイアップをし、夏休みということもあり、多くの先生方に参加していただきました。講師は「認定特定非営利活動法人こまちぶらす」の理事長で本市教育委員でもある 森 祐美子 氏をお迎えして「なぜ、社会とつながる学びが必要なのか」をテーマに、学校と地域の協働についてご講演いただきました。

今回の研修では・・・

- 協働を何のために行うのかのビジョンの共有
- 協働の出発点（きっかけ）
- 環境と関係性づくり

というポイントを踏まえながら、参加した先生方がグループで、対話を重ね自分自身の考えを照らし合わせながら研修を行いました。

講演では実際に『こまちぶらす』で行っている地域社会や企業との協働事例やプロジェクトの紹介の一つとして、飲み物を販売するための自動販売機でおむつを販売したプロジェクトの話がありました。そのプロジェクトのきっかけは、一人のお父さんの「おむつが自販機で買えたらいいな」という一言。そこから、おむつの販売会社と自販機の会社がつながることができ、設置につながったというお話でした。そのお話の中に、協働のヒントが隠れていました。

そのヒントから、協働を行うための目的の捉え方について、「何のために」行うのかという目的はそれぞれにあり、それぞれの「したいこと」が違う、という前提のもとに共有の目標をつくる。その目標を達成することでそれぞれの目的が達成できる。それが協働となる。そのために自分のことも相手のことも理解することが大切だというお話でした。



しかし、実際に連携を始めると様々な困難も考えられます。そのようなときに活用できるツールの例を教えていただきそのツールを使用して、自分の現状を具体的に課題として捉え、それを基にワークに取り組みました。

後半では、グループワークを行いました。今回は、各グループに学校・地域コーディネーターやケアプラザ地域活動交流コーディネーターの方に入っていただき、学校と地域の連携について協議を行いました。講演で得た学びや日常の学習活動において、どのような目的で地域と交流を行うことができるか、具体的に考えることができる時間となりました。

今回の研修を通して、地域社会とつながることの考えやイメージが深まり、連携を進めていく第一歩になっていただけると幸いです。各校の取組が充実して、子どもたちの豊かな学びの実現につながっていくとよいと思います。

研修の振り返り

(振り返りより抜粋)

- ・ 目的は違うのだが、同じ目標を達成することで、各目的を達成することができる。それぞれの「したいこと」が違うという前提のもとに「共有の目標をつくる」というところが勉強になった。



- ・ これまでは、地域の方々も忙しいだろうし交流はいろいろ準備を進めてからではないかと…と重く考えていたが、今回、話をすることで連絡や連携のハードルが良い意味で低くなりました。

- ・ 教員以外にも、地域の子どもたちや学校のことを大事に思ってくれている方々がこんなにたくさんいるのだと知って嬉しくなった。こうやって協力してくださる地域の皆様のためにも、改めて教員としての自覚をもち職務を全うしたいと思った。



- ・ コーディネーターの方々とお話を通して、活動自体から一緒に考えていくことをも可能だと分かり、具体的な連携のイメージをもつことができた。

- ・ 地域とどのように連携して、学校の教育活動を活性化していくのか。そのヒントは、まずは自分自身が一歩踏み出すことだと学んだ。

今年度の研修のお知らせ

※申込み方法等、詳細は、今後発出する通知でご確認ください。

学校運営協議会委員及び学校・地域コーディネーター及び 教職員合同研修

学校運営協議会委員、学校・地域コーディネーター、教職員を対象に研修を行います。
ぜひ、学校運営協議会等で対象の方々にお声掛けください。

1 日時及び会場

	日 時	会 場
1	10月16日（金）15:00～	花咲研修室
2	10月23日（金）15:00～	花咲研修室

- 2 内 容 ○実践校（幸ヶ谷小学校、岡津中学校ブロック）による事例発表
○グループワーク

学校・地域コーディネーター研修・交流会②

学校・地域コーディネーターを対象に、今年度2回目の研修及び交流会を経験年数別に日時を設定して開催します。なお、1回目を実施した研修・交流会と内容は異なります。ぜひ、ご参加ください。

日時及び会場（今年度2回目）

日にち	時間	対象者	会 場
11月12日（木）	午前の部 9：30～	R2年度以降 コーディネーター養成講座受講	花咲研修室
	午後の部 14：30～	R元年度以前 コーディネーター養成講座受講	

※経験年数別に日時を設定しています。ご都合が悪い場合は異なる時間帯に参加していただくことも可能です。

学校運営協議会の10月設置について

各学校の校長・副校長におかれましては、学校運営協議会の運営や設置についてご尽力いただき本当にありがとうございます。**今回、10月の設置申請が令和8年度の最後の設置申請の機会**になります。設置申請に向けて**8月中に設置申請書類と委員名簿の提出**をお願いいたします。**（様式等は学校から学校支援・地域連携課へご連絡ください）**

また、すでに設置されている協議会につきましても、「複数校での協議会を単独校にする」または「単独校での協議会を複数校にする」などの変更がある場合にはこの機会に申請をお願いいたします。

	学校運営協議会 設置の機会
設置日	令和8年10月1日
申請書提出の締切日	8月中 (締切日が難しい場合はご相談ください)

★運営協議会委員の方々に制度の説明や役割のご説明、また、運営協議会の熟議の内容や運営方法についてなど、学校を訪問して個別に相談・説明させていただくことも可能です。
その場合は、学校支援・地域連携課がうかがいますので、ぜひご連絡ください。

引き続き、どうぞよろしく願いいたします。
学校支援・地域連携課 671-3278